

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 7月 3日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670105313
法人名	社会福祉法人 吉田向陽会
事業所名	グループホームむれが岡風車の宿
所在地	鹿児島市牟礼岡1丁目3番7号 (電話) 099-294-7007
自己評価作成日	令和2年6月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年6月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○運営推進委員のメンバーがほとんど校区社協の知事、民生委員であることから地域密着が十分に図られて、地域の情報を共有できている。  
 ○法人の母体が保育園であることから、乳幼児との交流が随時図られ、保育園行事にも参加する為に、チャイルドセラピーの効果が出ている。  
 ○介護スタッフのほとんどが地域在住であるので、利用者と馴染みの関係ができています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市吉野支所から数km程離れた牟礼岡団地の一角に平成18年に開設されており、法人母体の保育所、児童クラブに隣接している。近くには牟礼岡小学校や地域コミュニティ等が有り、ホームからは団地の家並みや山上の風車等が眺められ、平穏に暮らせる環境である。保育所の園児とは日常的に親しく会話や遊びで触れ合い、運動会やソーメン流し、季節のイベント等も相互に行き来して一緒に実施している。また、小学校の運動会や校区の敬老会等に参加し、日頃の散歩時の会話や友人知人の来訪、ボランティアや施設見学の受け入れ等に積極的に取り組んでおり、これらの交流は利用者の楽しみとなっている。また、同法人が設置した地域コミュニティは、地域住民のサロンや学習の場として広く活用されている。

管理者及び職員は、ホーム独自の理念やケアの基本姿勢「ケアポリシー」を玄関やリビング等に掲示し、唱和や意見交換等を行って周知を図り、利用者の尊厳や人格、想いを大切にしながら、理念の「ごく普通の生活をその人らしく乳幼児や地域の方に囲まれ穏やかに過ごせる暮らし」となるよう日々取り組んでいる。利用者や家族の意向や要望等に対しては、スタッフ会議等で協議して改善を図っており、家族との協力体制や信頼関係が築かれている。日々の生活も利用者の心身の状態や生活習慣に配慮し、無理強いしないで利用者の主体的意向に添って柔軟に対応している。

管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、全員が気軽に意見を言い合える関係を構築している。職員の意見や個人的事情等に十分配慮しながら、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備に取り組んでおり、業務に対する助言・指導や研修の実施、資格取得へのバックアップに努めている。また、職員のスキルアップを図るため、協力医療機関の職員研修に、ホームの職員も参加させてもらう等の工夫も行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ごく普通の生活をその人らしく乳幼児や地域の方に囲まれ穏やかに過ごせる暮らしを実行します。」の理念を事務所や玄関、リビングに掲示して、唱和し理念に沿ったケアを心がけている。	地域密着型サービス事業所として、理念に、「利用者が地域の中でその人らしく平穏な暮らしの支援」を掲げ、目につきやすい玄関やリビング等にケアポリシーと共に掲示し、申し送りやスタッフ会議時の唱和や振り返り等で理念を共有し、日々理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の行事（敬老会、地域の運動会）保育園、小学校の運動会等の行事に参加し交流を行っている。散歩や個人の希望を聞きながら外出も地域に出かけているが最近ではコロナ感染予防のため自粛している。	開設以来、地域との交流を大切に取り組んできており、自治会に加入し地域のイベント（敬老会）や校区の運動会等に参加している。また、日頃から家族や友人等の面会や隣接の保育園児との触れ合い、歌や映画上映の定期的なボランティアの慰問が得られている。感染症等に配慮しながら可能な限り交流に努めており、地域の人との会話や農産物を頂く等の交流は、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の行事等へ地域の人から誘いがあり参加して、存在感を理解してもらい、地域の一員として交流している。2ヶ月に1回地域の方がホームにこられて、昔懐かしい歌や映画等の上映会にて交流の機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には民生委員や老人クラブ会長、行政からは地域包括支援センター、法人の理事長等が参加して事業所の活動の報告や委員からの評価、質問等にて意見交換がされている。職員には会議録を掲示してケアのサービス向上に活かしている。	会議は隔月毎に同法人の小規模多機能ホーム「吉田の里」と合同で定期的開催し、家族や民生委員、老人クラブ会長、地域包括支援センター、法人の理事長等が参加している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット事例等を報告し、委員からはケアの内容や感染症予防等に関する質問、意見が熱心に出されており、職員は内容を共有してサービスの改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当職員には介護保険の更新申請、各種の手続き等の相談事があるときは訪問し助言や指導を受けている。行政主催の勉強会、グループホーム連絡会との関わりを持ちながら協力関係を築いている。	市(本所及び各支所)の担当者には、電話相談や窓口に出向いて、介護保険の更新やホームの運営、災害や感染症予防の対応、各制度の相談等を行って助言・指導を頂く等、日頃から協力関係を築いている。行政や吉田地区「ケア会議」の会合や研修等にも積極的に参加して情報の交換を行い、サービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束改善計画規定」身体拘束廃止委員会も、毎月スタッフ会議で委員会を中心とした勉強会を開催している。ホーム内の鍵は中から開けることができ見守り、拘束のないケアを職員間で実践し安全確保に取り組んでいる。	身体拘束や虐待防止に関しては運営規定や利用契約書に明記し、「身体拘束改善計画規程」を整備している。尊厳を大切にケアの研修や委員会も毎月開催して、言葉づかいやケアの具体的事例による意見交換等を行って認識を共有している。日中は施錠しないで寄り添いや見守り等に努めて安全を図り、外出したがる利用者には一緒に散歩して安定を図るなど、工夫しながら自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回開催している職員会議で状態把握と対処、対応の意見を出し合って防止に努めている。馴れ合いの中で、言葉の静止にならないように尊厳を持って接するように、職員同士お互いに注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用者は昨年退所されたが、在所中はいろいろ関わって職員も家族の代わりに、入院の付き添い、買い物などの支援等で制度の理解はできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、施設内のオリエンテーションをして、サービス内容、料金等の重要事項を利用者、家族の疑問点や不安を聞き、十分に説明し納得、了承を得た上で署名、捺印をして頂く。制度改定は再度説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で、利用者に接しながら言動からその思いを理解するように努めている。家族からは、年2回の家族会や面会時に聞いている。今回は、新型コロナウイルス感染予防対策で面会謝絶が続きましたが、家族には毎月発行している「風車便り」日々の様子を報告しました	利用者の想いは、日頃のケアの中での対話や表情、仕草等から理解に努め、家族からの意見、要望は、面会や電話、家族アンケート、運営推進会議、家族会、意見箱、利用者の近況を伝える写真やお便りの送付等、工夫して把握している。出された意見はスタッフ会議等で協議し介護計画にも反映させて、運営やサービスの改善に繋げている。新型コロナウイルス感染症の影響で、やむを得ず面会や外出を自粛したが、家族には電話等で丁寧に利用者の状況を伝え、意見を貰う取組みを行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議に理事長も出席依頼し、職員の意見、要望など積極的に出し、それを協議して改善している。スキルアップを図るため、施設内研修、外部研修はキャリアに応じて受講している。	管理者は日頃からコミュニケーションに努めて、職員全員が気軽に相談や意見を言い合える関係を構築している。スタッフ会議には理事長も出席して要望等を把握し、協議して改善を図っている。日頃の業務や資格取得への助言指導やスキルアップを図る研修の実施に努め、外部研修の受講や勤務シフトには個人的事情にも十分配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は整備されている。常勤、非常勤に関わらず、職員の要望、意見を取り入れて、向上心を持って働くことができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今年は職員の退職等により大幅に職員の入れ替わりにより、新人研修、指導に、職員全員で取り組む。内部研修を充実させスキルアップを、図ることができている。外部研修に参加したら報告し、職員研修に結びつける</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉田地区のグループホーム連絡協議会の開催によるケア会議に参加し、地域の情報交換や勉強会に参加している。今後は、他ホームのとの職員交流、他ホーム訪問を計画している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	病院、施設、居宅からの情報だけでなく、契約前に、ご本人や家族に訪問していただいたり、入院、入所されている場合は、現場訪問して情報収集すると共に、希望や要望を徴収し環境変化が少ないように環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に来所して頂きご家族の要望を聴き、不安解消し、信頼関係が築けるように努めている。入居後は訪問時に、個々の状態を報告し意見交換するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問の情報を基に現時点でご本人のベストな環境で生活できるように、少しでも長くホームでの生活ができるように、その人のあったサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者の生活に寄り添い共に生活しているもう一つの家族として対応している。人生の先輩として、尊厳を持ちながら、支援する側、される側という意識は持たず、お互いに協働して生活することを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が遠のかないように意識的に機会を作るように配慮し、誕生日への参加の声掛け、利用料金のホームへの直接支払いの要請など、家族関係が途切れないようにしている。ご家族と意見交換情報の共有同じ思いで支えていけるように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活暦の把握し、馴染みのものに関する情報を共有している。馴染みの美容室の活用、自宅へ外泊、家族や友人の来訪時の写真撮影、墓参り等ご家族の協力を頂き支援している。	入所時の調査や日頃の利用者との会話、家族からの情報等で馴染みに関する情報を共有し、心身の状態や感染症の流行状況等を考慮しながら、意向に沿って散歩や買い物、外泊、ドライブ、法事、地域行事等に家族の協力も得ながら出かけている。家族、友人等の来訪時には写真撮影し、ゆっくり面談出来るようにお茶等を配慮している。遠方の家族とは電話や手紙を取り次ぎ、お便りや写真の送付、メールで利用者の近況を伝える等、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性、性格などを把握トラブル等には十分に配慮し利用者同士が自然な形で会話出来るように、職員も中に入り支え合いながら生活できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の状態に合わせて、どのようなサービスや施設が必要か家族と相談して支援している。利用後も施設面会、病院へお見舞い、亡くなられた場合は全職員でお通夜に行く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の望む生活が送れるように利用者の思いや以降を日頃の会話や表情等を見ながら把握している。車椅子生活の利用者が多くなって一人ひとりの状態を見ながら意向に沿ってできる範囲で支援している。	利用者の見守りや寄り添いの姿勢に努め、日頃の会話や表情、サイン等で想いを把握し、理念に沿った平穏な暮らしの支援に取り組んでいる。利用者個別の買い物等の外出や趣味（読書、ぬり絵他）や家事（食材の下処理やテーブル拭き他）の取り組みも心身の状況に配慮しながら支援しており、自己決定や達成感が得られるように、その都度、感謝や評価の言葉を伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を把握、これまで利用したサービス状況を家族や関係者から情報収集して、生きがいのある、馴染みの生活環境に近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に身体状況や認知症状等の把握に努め、小さな変化や動きからも感じ取り、本人の全体像を把握し職員間で情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一連のプロセスを経て、本人・家族の意向や主治医の意見や6か月のモニタリング等を基に利用者主体の介護計画作成をしている。毎月の職員会議には何が必要なのか、状態変化が見られたら現状に適した計画を作り直している。	本人・家族の意向を把握し、主治医や訪問看護師の指示や日頃のケアの状況、スタッフ会議やモニタリングでの意見等を基に、生きがいにも着目した利用者主体の介護計画を作成している。支援の状況は「ホーム日誌」や「入居者確認表」「健康チェック表」等で共有し、利用者の状況変化に応じて計画の見直しと修正を行って改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況、精神状況、認知症状等の気づきを個別記録に記入し情報を共有している。朝夕の申し送りでカンファレンスや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子生活が半分を占めており、全員で月に1回は外出を計画していた。今は、個別の要望でドライブや散歩に出かけている。グループホームだからできる支援の充実に努めていきたい。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事（運動会、敬老会）へ積極的に参加し、閉ざされた空間での生活にならないようにしている。保育園交流（夏祭り、運動会、ソーメン流し、鬼火炊き）に参加。乳幼児たちとの触れ合いを楽しむ。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本は家族に依頼しているが、急変時や家族が遠方の場合は臨機応変に対応している。月2回協力医の訪問診療週1回の訪問看護を実施して、医療連携により日々の健康管理は出来ている。	かかりつけ医は本人及び家族が希望する医療機関としており、通院は専門科も含めて家族と連携して受診している。月2回主治医の訪問診療が実施され、週一回の訪問看護により健康管理や感染症予防等を徹底している。協力医療機関との連携体制も構築されて、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携にて訪問看護を週1回受けている。急変時もすぐに連絡できる体制が出来ている。主治医と連絡を取り点滴等の応急処置も受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時には情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。入院中、職員、管理者が訪問したり家族が近くに居らずどうしても術後や不穏状態があり付き添いが必要な場合は職員がしたり退院を含む今後の方向性についても話し合っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期のケアに対する指針「ターミナル指針」を契約時に説明し同意書に署名をもらっている。状態に重度化が見られたら再度家族や本人の思いを確認している。協力病院による往診、訪問看護も受けているので最期を希望された場合看取りまでの支援体制は出来ている。</p>	<p>「ターミナルケアの指針」を整備し、入所時に利用者や家族に説明して理解を得ている。重度化した時点で利用者や家族と十分な話し合いを行い、訪問診療や訪問看護も活用して可能な限り希望される終末期のケアの体制を構築している。最終段階で殆どの利用者が医療機関への入院を選択されているが、これまで1件ホームでの看取りを実施している。看取りケアのスキルアップを図るため、協力医療機関の職員研修にも参加させてもらう等、レベル向上に務めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルがあり、同敷地内にある保育園にAEDを設置し急変時に速やかに対応できるように備えている。毎年、救急蘇生法の研修をうけ実践力を身に付けるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間想定を含む火災訓練を年2回実施。避難経路の確認等、自主訓練も実施している。隣接する保育園の園庭が避難場所指定である為、保育園の職員や地域の参加も得られる。スプリンクラー設備や火災通報を設置している。備蓄として飲料水や食料品、介護用品を準備している。</p>	<p>年2回夜間を含む災害発生を想定した訓練を、隣接の保育所や近隣の住民の協力を得て実施し、併せて通報装置や消火器の取り扱い等の研修も行っている。年数回、自主訓練も実施して連絡網や避難経路等を確認し、災害報道等も話題にして防災への意識の共有に努め、救急蘇生法の研修も毎年受講している。スプリンクラーや火災通報装置が設置され、懐中電灯、ラジオ等の備品や食料品や飲料水、介護用品等も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格の尊重し、プライバシー確保は、スタッフ会議で尊厳や誇りを損ねないように意見交換して言葉使い、声掛けには十分に配慮している。	プライバシーの保護については研修の実施で理解を共有し、尊厳や誇りを傷つけるような言動が無いように常に留意している。利用者が自己決定できるような支援に努め、意向を尊重したケアに取り組んでおり、特に衣服交換や入浴、排泄時の支援は羞恥心にも配慮している。ホームはプライバシー保護に配慮された構造で、利用者に係る台帳類についても適切に管理している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に寄り添い、表情を見ながら声掛けして、安易に答えを提供せず自らの思いを出せるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の穏やかな生活の実現のために取り組んでいる。職員の都合にならないようご本人の気持ちを尊重し、できる限り個別性のある支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身に付ける衣服を一緒に選んだり、髪伸び具合を見計らって2～3か月毎に、希望を取って地域の美容院より訪問カットをお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同敷地内にある保育園の栄養士が食事形態、栄養、嗜好等を考慮して献立を作成してもらい調理している。食材の下ごしらえや下膳など一連の流れに沿って手伝いをもらっている。	日頃の会話から希望を把握し、形態や疾病による制限、栄養バランス等に配慮した献立を法人の栄養士の助言を得ながら作成し、旬の食材や頂いた野菜等も活用し、代替食や盛り付けなどにも配慮している。おせちや敬老会、クリスマス等の行事食や外食、家族とのバイキング形式の会食、手作りのおやつ、保育園児とのソーメン流し等工夫しており、利用者も食材の下処理等を楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は、個別の状態に合わせて変えている。食事量は毎食後にチェック記入。水分補給は三食時、10時、15時、入浴時に水分補給。常に、麦茶、ポカリスエットの常備。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後の口腔ケア等、個々の能力に応じて援助している。見守り、自立の方を含め口腔内の観察、自歯や義歯に痛みや異常が見られたら訪問歯科に依頼する。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心を傷つけないように配慮し、個々の身体能力に応じて、支援している。排泄能力、排泄パターンを把握して、日中はトイレで排泄支援している。ポータブルトイレ使用者はいない。	利用者毎の排泄パターンを把握し、見守りや声かけに努めて可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の身体状況に応じたケアの方法や介護用品を介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、ポータブルトイレが不要となる等の改善が見られている。植物繊維の多い食材や水分の摂取、運動量に配慮して便秘の予防に努め、主治医の指示も得ながら改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事の中に食物繊維を含む食材に水分を多く摂れるような機会を作り、水分確保に心がけながら日頃の便秘予防に努めている。状態によっては主治医の指示にて下剤にて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	身体の清潔保持、気分転換に週3回は入浴支援している。入浴日以外は足浴、清拭支援している。入浴拒否の場合は、時間をずらして様子を見たり、タイミングを見計らう、無理強いしない。	利用者の心身の状態に配慮し、清拭も取り入れながら週3回の入浴を支援している。随時必要時は即シャワー等で清潔を保ち、時間や温度、好みのシャンプー等は意向に沿って柔軟に対応して楽しんで貰っている。入浴をためらう利用者には、時間や声掛けの工夫で、利用者が意欲を待つように努めている	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や体操等、日中は体を動かし活動して、生活のリズムの確保、天気の良い日は寝具の日光干し、室内に応じては、適温医事し寝具の等の清潔保持、調節に努めている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに情報を整理し、朝、昼、夜食後に個人ごとに振り分けている。何時でも、誰でも確認できるようにしている。誤薬のないように3回は確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、自分できないことを把握し、自らが出来るように支援している。季節の行事や個々の誕生日を大切に提供している。得意分野で能力を発揮して喜び楽しみを見出す支援。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者の要望に応じて、保育園周辺の散歩や、ドライブ、買い物、墓参り、一時帰宅等の外出を家族の協力をもらいながら支援している。歩行困難なご利用者様は、車椅子で、屋外への支援、地域の行事参加等計画している。</p>	<p>利用者の心身の状態や天候に配慮しながら、日常的に園庭及び周辺の散歩や買い物、通院等に出かけている。墓参りや一時帰宅、外食、法事参列等の外出は家族の協力を得ながら取り組み、また、吉野公園の桜、蒲生町の芝桜等の花見や水族館の見学、慈眼寺公園へのドライブ、地域イベントへの参加など、全員での外出も計画的に実施している。感染症予防の外出自粛期間中は、ホーム内で工夫してリフレッシュを図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご利用者様は、自分でお金の管理は出来ない。しかし、外食や買い物の際は、必要な金額をその時に渡して自分の買いたいものをお金を払って楽しまれている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人自身からの、電話や手紙等の申し出はないが、ご家族からの電話を受け、ご本人に取り次いだり、手紙等の場合は一緒に読んであげて喜びを分け合っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全体が、手すりや段差のない安全な建物になっている。リビングに台所、テーブルセット、テレビ、ソファの設置、利用者のくつろぎの場として畳部屋も設けてある。居間や廊下に花や写真の掲示を行い隣接する保育園から園児の声が聞こえる家庭的な雰囲気の空間となっている</p>	<p>個人住宅を改装したホームで、落ち着いた内装や防音、防火、空調、バリアフリーに配慮された構造となっている。リビングには、テーブルセットやソファ等が利便性や対人関係等を考慮して配置され、清掃や衛生管理が徹底されている。利用者の作品や写真、活花等が随所に飾られ、山上の風車や周辺の住宅、保育園児の活動等も眺められて、和やかな雰囲気となっており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穏に過ごしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>馴染みの気の合う利用者同士の会話、自室でベッドで横になって懐メロをロずさんでいる方、リビングで椅子に座ってにこやかに笑っている方、廊下で日向ぼっこ等、安心して生活して頂くように工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>同じ敷地内にある保育園の園庭側にベッド、エアコン、ダンス、空気清浄器を設置して馴染みの物、孫や家族の写真の掲示。行動スペースを確保して安心して居心地の居室になるように工夫している。</p>	<p>フローリングに掃出し窓の居室は明るく、ベッドやエアコン、ダンス等が利用者の状態を考慮して配置され、各居室の入口には自室を戸惑うことの無いよう名札や飾り等が工夫されている。利用者の意向に沿って清掃等を支援し、利用者は使い慣れた寝具や家族写真、遺影、小物等を持ち込み、また、自身の作品やプレゼント品等も飾って安心して寛げる居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の安全と自立支援を目的として廊下やトイレ内、脱衣所、浴室の手すりやグリップの安定など必要に応じてベッドの介助カバーを設置している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない